

会報

89号



函館の歴史的風土を守る会
会報編集部

発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)51-4785
印刷所 旬三和印刷 電話 45-0845

第37回 函館の町並みを美しくする 新春チャリティー パーティー

参加者280余人参集。
盛大に行われた!!



市民運動としての「歴風会」の立ち位置

会長 佐々木 馨

昭和53年に田尻聡子さんの呼びかけに始まった「歴風会」もお陰様で今年、37年を迎えます。本会が広く「市民権」をえた市民運動として認知されていることに、心よりお礼申し上げます。本会は昨年、新しい取り組みにも挑戦しましたので、ここで改めて会としての「立ち位置」を確認したいと思います。

① <新たなうねりとして>

私ども「歴風会」は「函館日仏協会」(会長 若山直)と連携しながら、昨年の9月6日、故グロード神父さんの「五稜郭を世界文化遺産の追加登録」という夢を「遺言」と受け止め、「五稜郭の文化価値を考える会」(会長 佐々木馨)を結成しました。五稜郭をフランス本国に次ぐ13番目のボーヴァン式城塞群に追加登録にしたいという神父さんのご意向に即したアプローチもありましたが、例えば、五稜郭とボーヴァンの時代的乖離、函館市内で先行している「縄文文化群の世界文化遺産」の推進運動等を総合的に勘案して、五稜郭の全体像の構築を目指す「五稜郭の文化価値を考える会」を創設しました。これは市民各界の声を反映した「オール函館」で取り込む市民運動と捉えていますので、「歴風会」としてもまさに、空前の<新たなうねり>であります。

この<新たなうねり>は会費制(個人千円、団体五千円)による事業運営とし、年2回の講演会の開催と年5回程度の「連続講座」(原史料の紹介と解説)の開講を通して、「五稜郭とその関連施設群」の検証に迫ろうというものです。多くの皆さんのご参加とご支援をお願いいたします。

② <伝統を踏まえて>

「歴風会」の恒例行事として、函館市都市建設部との連携による「見て・聴いて・考える町並み」の見学会(昨年9月15日)を実施しました。船魂神社・山上大神宮・厳島神社・高龍寺金毘羅堂などの神社仏閣に焦点化したこの会は「珍宝発見」の連続で大好評でした。同じく建設部との連携行事としては、「開港5都市景観まちづくり会議」があります。昨年は「横浜大会」であり、一昨年の「函館大会」で取り上げた「地域と大学の連携」を発展的に継承した内容も盛り込まれていました(詳細は後述の<参加記>をご覧ください)。

「歴風会」の単独の伝統事業として、ご周知の「函館の町並みを美しくする新春チャリティー・パーティー」(街並み基金をつくるタベ)があります。五島軒本店を会場として本年は2月20日に開催されました。近年になく、300名に近いご参加を頂きました(これも、後述の関連記事をご参照)

③ <市民の目線>

「歴風会」の基本的スタンスは市民と共に歩み、共に考えるのが原点であります。昨年の暮れ、雑貨店経営者の清水憲朔さん(はこだて外国人居留地研究会副会長)が明治35年に海産物問屋として造られた歴史的建造物を「貸店舗に改修」というホットなニュースがありました。「歴風会」としても大いにエールを送りたいと思います。



平成26年度 歴風文化賞 (第32回)

原風景 = 宣言文 =

横津連峰

よこつねんぽう

函館市・七飯町・鹿部町

函館の平野を見守るように連なる横津の山並。

横津岳^{えぼしだけ}、烏帽子岳^{はかまごしだけ}、袴腰岳^{はかまこしだけ}等がやさしい稜線を描いている。

春の新緑から冬の雪景色まで、四季折々に変化する色どりが横津連峰を美しく飾っている。

遠く縄文時代以前から現在まで変わらぬ形で我々を見守っている「横津連峰」は函館の原風景であることを宣言する。



保存建築物

豊川稲荷神社社務所

とよかわいなりじんじやむしょ

函館市元町7-2 杉山 佳成 様

この建物は昭和9年の大火直後に建てられた木造2階建の建築物である。

屋根部分に緑色の小屋根でデザインされた望楼が設置されており、この建物のアクセントとなっている。

外壁はモルタル仕上げであり、望楼下の凹凸でデザインされた

た装飾や側面の丸窓等もこの建物を特徴的なものとしている。

2階から鉄製の梯子で上ることのできる望楼は、建設当時高い建物がなかったことから函館市内が一望できたと推測される。室内の間取り、仕上げ材料、装飾等も創建当時のまま保存されており、現在は豊川稲荷神社社務所と豊川町会館が合同で利用している。

この建物は創建当時の姿でしっかりと保存されており、昭和初期における函館市の建築物の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物

笠井美枝邸

かさい みえ

函館市花園町37-17 笠井 美枝 様

この建物は昭和20年に建てられた木造2階建の農家住宅である。

外壁のささら子下見板張り、漆喰塗の壁は1991年に創建当時の姿で修繕されている。屋根は当初トタン葺きであったが、耐久性を考慮して1989年に瓦葺きに変更している。室内の間取りは基本的に創建時のままであり、1階に広い玄関と6室、2階に2室で構成される大規模な農家住宅である。玄関と1階広間から見ることで太さ30cmもある大黒柱や太い梁が風格を醸し出しており、構造材は宮大工による巧みな技術により釘をほとんど用いないで組まれている。室内の建具、2箇所の囲炉裏、調度品等も綺麗な姿で保存されている。

この建物は創建当時の姿でしっかりと保存されており、昭和前期における函館市の農家住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。



再生保存建築物

原 眞人 邸

はら まさと

函館市船見町3-8 原 眞人 様

この建物は明治時代に函館経済界の中心人物であった平出喜三郎の住宅であった。

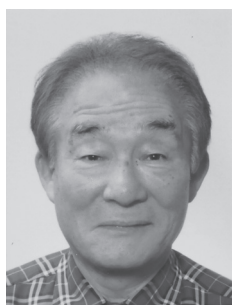
現在の建物は主屋から渡り廊下でつながる離れとして、明治中期には建てられていたと思われる。当時は1階を洋室の応接間、2階を和室の書斎として使用しており、風格のある蔵が一体となっている。

現在1階部分はリフォームされているが、2階部分と蔵は創建時のままであり、道路側から見える外観もほぼ創建時の姿である。敷地は幕末期に咬菜園として利用されていた歴史深い場所にあり、木々の生い茂る風情のある庭を居間の窓から臨むこともできる。

この建物は外観、室内共、創建時の佇まいをしっかりと残しており、明治時代における函館の建築の歴史を知る上で貴重な建築物である。



個人賞



中尾 仁彦 様

なか お ひとひこ

函館市日吉町3-39-15

箱館歴史散歩の会

中尾 仁彦 様

箱館歴史散歩の会の活動は平成20年にスタート、平成27年1月で130回を迎えた。

函館市西部地区を中心に名所・旧跡、文化・風土を見聞し、郷土函館の記憶を訪ね歩き、多くの方々とふれあい共に学び輪を広げてきた。

箱館歴史散歩の会の活動は口コミで広がり、月2回の参加者は毎回100名近くとなり、延べ1万人という多くの方々に支えられている。

参加者が知り得た知識を若い世代にも伝え、若者が函館をもっと知り郷土函館に誇りを持つようにという呼び掛けも毎回行っている。

「見て、聞いて、歩いて、楽しく学ぶ」をモットーに魅力ある函館の歴史と文化を伝える「語り部」でありたいという願いのもと積極的な活動を続けている。

中尾仁彦氏のこれまでの「郷土函館に根ざした活動」を高く評価する。

団体賞



はこだて外国人 がのこくじん 居留地研究会

きょりうち けんきゅうかい

函館市中道1-6-10

はこだて外国人居留地研究会

会長 岸 甫一 様

はこだて外国人居留地研究会は2007年6月設立、40名の会員により函館の街並みを今に生きる歴史遺産ととらえ、それらを生み出した国際交流の歴史研究を行っている。

現在まで10編の歴史リーフレット等を発行、開港を中心とするテーマで講演会も開催、月例で会員による日頃の研究発表会も実施している。

2009年には「第2回外国人居留地研究会全国大会」を主催、各地域から研究会の代表を招き、研究発表、シンポジウムを行い全国に向けての発信も行った。

2015年春には世界各国からの旅行者に、身近に函館の歴史に興味をもってもらえる英語版の小冊子を発行予定である。

函館における外国との異文化交流の歴史を函館市民と共に学び、研究成果を市民に還元、地域の再生を目指すことを目標に活動をしている「はこだて外国人居留地研究会」の実績を高く評価する。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である



実行委員長あいさつ

齊藤 サダ

道南歌人教会 事務局長

私は、北海道道南の短歌愛好家集団・道南歌人協会の事務局を預かっております、齊藤サダと申します。函館の歴史的風土を守る会

の新春チャリティパーティの開催にあたり、実行委員長の大役をお引き受けしたものの、その任の重さに身の引き締まる緊張の中におります。

道南歌人協会は、昭和24年に創設された短歌愛好家の会です。この会の創設当時には、石川啄木の生涯を支えた宮崎郁雨さん、石川啄木の研究者・阿部たつおさんらも会員にその名を連ねておいでです。この道南歌人協会が、創設60年を迎えた平成21年夏、函館は勿論、道南一円の方々に、啄木も愛して止まなかったこの函館を是非とも短歌に詠んでもらいたい、との切ない願いのもと、新しく発足させたのが、「みなみ北海道く公募」短歌大会」です。当時、発足作業に当られた諸先輩・歌友の皆様には、心より敬意を払うものであります。

「みなみ北海道く公募」短歌大会」の開催に当り、若い人に、特に、高校生や大学生に短歌を詠んで貰いたいのが一番の願いでした。その願いに応じて市内各高

校の生徒さんが応募して呉れましたが、中でもとりわけ、歌の募集に一役も二役も担って下さったのが、函館の歴史的風土を守る会の会長佐々木馨先生でありました。お陰さまで、今年度の第5回「みなみ北海道く公募」短歌大会」も盛会裡に終了する事が出来ました。学生たちは、函館の気候・食物・人情・そして学生生活等を詠み込み、我々の狙いが的中したと密かに喜んでいるところです。

函館山から、足元の西部地区の景観、函館市街・函館郊外・北斗市・七飯町、そして横津の山並みを俯瞰する時、この素晴らしい地形的ステージにいつも感激感動します。このステージを更に光り輝かせるのは、ひと・人間の熱い息づかいです。「死ぬ時は函館で」と書簡に残した啄木のその心を函館に寄せさせたのは、郁雨先生を始めとした函館の人々が、啄木を敬愛しその才能を心から愛しんだからです。だからこそ、啄木そして函館の文学繋がりで、「人に寄せる熱い思いのある町函館」を愛する櫻井健治さんに、曲げて副委員長をお受け戴いたのです。

新幹線が来ます。食・温泉・風景などに加えて、函館の歴史的風土を守る会の皆様の「人に寄せる熱い思い」の活動は、多くの人々を、この函館に引き寄せることと信じます。

函館の歴史的風土を守る会の益々のご活躍・ご継続を祈念して、ご挨拶と致します。お開きまで、どうぞ、宜しくお願い致します。



閉会あいさつ

副実行委員長

櫻井 謙治

函館の歴史と風土を守る会新春チャリティーパーティー開催にあたり、佐々木会長のもと、齊藤実行委員長の命を受け、副実行委員

長を仰せつかりました櫻井と申します。

39回目を迎えました今日のチャリティーパーティー、大変多くの皆様のご協力とご支援によりまして楽しくなごやかにまた賑わいをもって無事進行することが出来ました。

歴風文化賞を受賞されました皆様には、今後とも引き続き保存建築物を大切に守っていただき、また中尾さん、そしてはこだて外国人居留地研究会の皆様にはこれまで同様に函館の歴史あるいは魅力といったものを広く市民の皆様にお伝えしていただければと

思います。

恒例のチケットNo抽選会そしてチャリティービンゴ、皆さん望みのものを手にすることが出来ましたか？

望みの叶わなかった方は、来年に向けて今からしっかりと祈りを捧げて再び挑戦していただきたいと思えます。

このところ、政治の世界では、地方創生とか再生という言葉が随分使われる様になりました。出版界でも地方消滅に関わる書物の売れゆきがよい様ですが、私達はこれだけ魅力あふれる函館の町を絶対消滅させる訳にはいきません。

横津連峰という原風景の裾野に広がる大切なふるさとを歴風会の皆様が心ひとつにして大切に守りそして育てていくことが、会のさらなる責務の様に思えます。

今日ご出席の皆様のますますのご健勝とご活躍、そして歴風会のさらなる発展を衷心よりご祈念申し上げ、十分意はつくせませんが、私の閉会のご挨拶といたします。

皆様本当にありがとうございました。



町並み基金贈呈の謝辞 函館市都市建設部次長 内藤敏男氏



乾杯発声 函館市議会副議長 齊藤佐知子氏

受賞者代表謝辞

はこだて外国人居留地研究会 会長 岸 甫 一 様

只今ご紹介頂いた岸でございます。「はこだて外国人居留地研究会」を代表して、ご挨拶させていただきます。

この度は「歴風文化賞」を頂戴し誠にありがとうございます。会員一同、名誉ある受賞に嬉しく思うと同時に、責任も感じているところでございます。

【研究会設立の経緯】

「はこだて外国人居留地研究会」は2007年6月に設立致しましたので、設立からまだ8年しか経っておりません。設立のきっかけは、実は、その年の歴風会の「新春チャリティー・パーティー」で、偶然、いま研究会の副会長の清水憲朔さんと同じテーブルについたことにはじまりました。というわけで、8年前のこの場が、研究会がオギヤと誕生した運命的な縁となったことを申し上げます。その場で開港の時期の函館に住んだ外国人の話で清水さんと盛り上がり、その後清水さんの行きつけの店で、「はこだて外国人居留地研究会」の立ち上げを二人で即断即決したことを鮮明に記憶しております。

特に今年度は、来年の新幹線の開通や外国人観光客の増加により人的交流の活発化が期待されるなかで、

このような状況を幕末・明治のような国際性を函館に復活させる好機ととらえ、「第二の開港」プロジェクト立ち上げチームを結成いたしました。その勢いで、これまでのリーフレットを総合した独自の冊子を、この程発行したところでございます。また、海外からの旅行者にも身近に函館の歴史に興味を持っていただけるよう英語版の発行を4月に予定しています。

最後になりましたが、最初の研究会の誕生から本日の「歴風文化賞」受賞まで、歴風会に対し厚く感謝申し上げます。これからも研究会設立当初の理念や目標を忘れることなく、大いに意見をぶつけ合いながらも、それがエネルギーの源になるよう、いつも前を向いて「歴風文化賞」にふさわしい活動が続けてまいりたいと思いますので、ご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

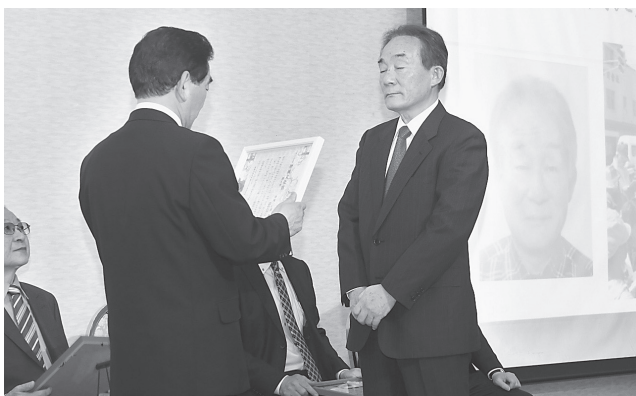
本日は、本当にありがとうございました。



駆けつけられた、おおさか誠二衆議院議員



笠井一美氏（保存建築物）



中尾仁彦氏（個人賞）

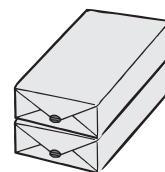


原 真人氏（再生保存建築物）



チャリティパーティのビンゴ商品のご提供

ありがとうございました



第36回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティへの
景品のご提供に御礼申し上げます。

五稜郭タワー(株)、函館山ロープウェイ(株)、(株)五島軒、(株)青函設備工業、金森商船(株)、
(株)マークスBMWモーターレン函館、(株)オオタカ函館、北海道コカ・コーラボトリング(株)、函館
トヨペット(株)、中島孝内科循環器科医院、福田海産(株)、(株)ニューメディア函館センター、
(株)元町マリンハウス、LEAVES函館、(株)平野建業、(株)URK環境設計研究所、今整形外科医院、
坂本仕出し店、リード不動産、POPくらぶ、ギャラリー杉本、花かるた、(有)カーショップ・ニシ
ノ、(有)タカオ工業、(有)三和印刷、旧相馬邸、(有)ユイホーム、原田組、料亭 富茂登、星野リフ
フォーム、STYLISH・SALON・HAIR・PIECE・AKITA

(歴風会会員) 佐々木 馨	吉村富士夫	石井 満	新城 光正	桜井 拓郎	落合 治彦
対馬 誠	安井 徹	原谷 紀昭	薩来 俊彦	齊藤 サダ	桜井 健治
里見 泰彦	斉藤 光子	今 千尋	辰村 和子	小山 直子	対馬 栄子
田島 優子	我満 陽子				

(順不同・敬称略)

※記載もれがありましたらご容赦ください。



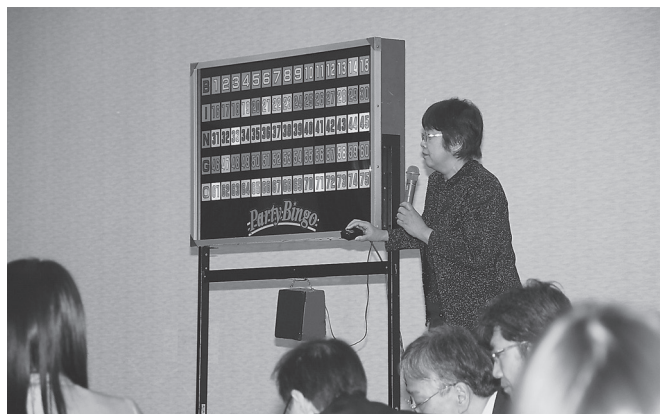
感謝状を受ける佐々木会長



会場入口に展示された「ふるさと写真展」入賞作品



対馬栄子会員の「伊達奴」で幕が上がる



ビンゴ大会進行に張り切る我満会員

歴風文化賞表彰式・チャリティーパーティーの運営と感想

運営委員 対馬 誠

今年度も表彰式・パーティーを無事終了することができました。齊藤実行委員長、櫻井副実行委員長の協力もあり参加者が280名を超える盛大な表彰式、パーティーとなりました。また、チャリティー商品を提供された企業、個人の皆様には深くお礼も申し上げます。

今年度の歴風文化賞は「保存建築物」2件、「再生保存建築物」1件、「個人賞」1件、「団体賞」1件、「原風景」1件の計6件となりました。受賞された皆様におかれましては、今後も函館の歴史的街並の保全に貢献していただきたいと願っております。

歴風文化賞は今年度で32回目となり、過去を遡ると「保存建築物」84件、「再生保存建築物」32件、「個人賞」7件、「団体賞」28件、「特別賞」5件、「原風景」32件の総計188件となりました。今後もこの受賞数の積み重ねが、函館の歴史的街並を守っていく「歴風文化賞の役割」だと思っています。

建築物に関しては数年前までは建築年が昭和10年代までという大まかな規定がありましたが、ここ2年程

歴史的価値のある建築物に関しては昭和20年代まで範囲を広げています。函館市内ばかりではなく北斗市や七飯町も対象となっておりますので、「あれ？この建物は歴史がありそうで綺麗に保存されているな！」と思ったら担当まで是非連絡をください。受賞候補の建築物、個人、団体、原風景等につきましては、会員以外の皆様からも多くの推薦を受け付けておりますので担当までお知らせ願います。(担当対馬、自宅電話46-8104)

チャリティービンゴはビンゴカードが過去最高の334枚の売り上げとなり、多くの皆様にもれなく豪華景品？をお渡しすることができました。また恒例の対馬栄子さんの日舞、鈴木亜衣さんの「声楽」、三沢クイズ等で参加された皆様には楽しんでいただけたと思っています。

来年度も皆様の御協力、ご参加よろしく御願いたします。



フィナーレのスナップ



フィナーレは全員で「函館讃歌」を

「歴風会新会員の募集」

当会では、新会員のご入会を募っております。

会費は年会費として

・個人会員会費 3,000円

・個人学生会費 1,000円

・団体会員会費 5,000円

多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

開港5都市景観まちづくり会議横浜大会・分科会Ⅲに参加して

函館市都市建設部まちづくり景観課 東 出 瑞 乃

私が参加した分科会Ⅲでは、「創造都市とまちづくり～アート・建築・デザインでまちが変わる～」をテーマとして、建築、写真、美術などの創作を生業とするアーティストが、歴史的な建物等に事務所を構えるまちづくりの事例が紹介された。

歴史的な建物はアーティストの創造力を刺激することから、これら建物に様々なアーティストが集まり、単に情報共有を図るだけでなく、個々の得意分野を活

かし連携することによって、個人事務所では請け負うこ

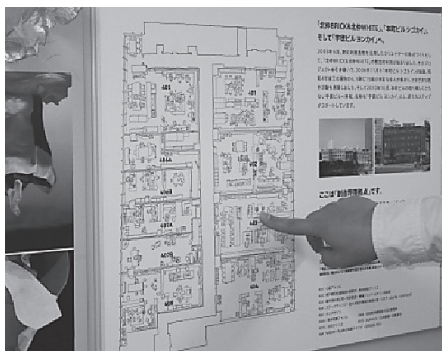
とができない新たな仕事の獲得につなげている。

このような取り組みは、横浜市で徐々に広がっているとのことであったが、このことは、地域の資源である歴史的建物と芸術など新たな分野との融合を図ることにつながり、ひいては個性豊かな都市空間が形成され、都市のブランド力が向上するなど、多くの効果が期待できるのではないと思った。

歴史的な町並みを維持していくためには、その重要な構成要素である歴史的建物を保全するのはもちろんのこと、事例発表のように、建物を利活用し、人が集まって新たな価値を生み出す「仕掛け」にも工夫をしていくことが大切であると感じた。



建築事務所



デザイナー等の事務所の集積(フロア図)



建築事務所

■ 空き物件の再生事例

昨年の平成26年10月17日から3日間「開港5都市の景観まちづくりの会議」が横浜で行われました。今回は20回目の節目の大会です。景観まちづくり、次なる未来に向けて展開、開港都市の可能性ということで分科会のⅠ“港と未来”のテーマに参加させていただきました。水陸両方からの視察(屋形船と徒歩)屋形船で港内を見学、海面上からの目線が街を見上げるような角度となり、港の景観が新たな感覚で見ることができました。

“黄金町”には屋形船で川上り、川を挟んで左が“伊勢崎町”です。“黄金町”は初めて聞き見る街。「ちょんの間」と呼ばれる小さな風俗店が立ち並ぶ“かつては行ってはいけない町”が“アートの町”に生まれ変わった姿を拝見、伊勢崎町では、人の行き来の多さにびっくりし、街の散策の後の会場でのディスカッショ

ンでは、各都市の意見交換の中で、集客のためのイベント会場や休憩場としての使い方等、街づくりの意見交換がおこなわれ、函館のシャッター街や空地の多い松風町等、函館の商店街の現状を見るにつけ課題解決の一端があるのではないかと感じる街づくりの熱意が伝わってくる会議でした。



「ちょんの間」と呼ばれる小さな風俗店

新城 るり子
(新城会員令夫人)

開港五都市景観まちづくり会議横浜大会 第4分科会「オープンデータ」に参加して

運営委員 里見 泰彦

1. 第4分科会次第

- ①横浜市取組み説明：横浜市政策局 関口昌幸氏
- ②アプリを用いた具体例紹介
東京都市大学教授 上野直樹氏
- ③アプリ紹介
(株)まちづくりプラットフォーム 小泉貴義
- ④ARアプリ紹介および道案内 東京都市大学
大崎敬志朗及学生

2. 概要

オープンデータの活用がテーマ。この分科会では街歩きへの利用が実際に歩きながら紹介された。具体的には以下の三要素の組み合わせとなる。

【拡張現実】+【オープンデータ】+【アプリとオープンデータでの街歩き】

提案は民間からであったが、現在は横浜市が主導して、多くの団体が参加しているという。総務省も実証実験に参加しているとのこと。

3. 言葉の説明

【拡張現実】

現実の世界に仮想画面を映し出す技術

【オープンデータ】

自治体等の保有する二次使用可能なデータ。函館でいえば中央図書館の所蔵している写真、絵画、絵葉書、ポスターなど。

【アプリとオープンデータでの街歩き】

スマートフォン、アイパッド等に通りの画像を写しながら街歩きをする時、過去の歴史的画像が重なって現れてくるような設定が可能。

函館でいえば、十字街を昔の家屋の映像を現在の家屋に重ねながら町歩きするなど。

4. 実際の街歩き

実際にアプリを使いながら90分程度の街歩きを行った。まず、JUNAIOというサーバーにアクセス。これにより過去の画像が現在街歩きをしている場面に映し出されるようになる。ルートは下記の通り。

さくらworks⇒横浜市開港記念館⇒神奈川県庁⇒象の鼻パーク⇒大棧橋国際客船ターミナル⇒横浜マ

リントワー⇒横浜公園⇒さくらworks

街歩き終了後3班に分かれて将来の可能性等について検討会を行った。



スマホを使いながらの街歩き

5. 感想

実際に街歩きをしてみると、光の強いところでは画面が見えないとか細かな問題はあるが、観光だけでなく、育児、買い物など色々な分野に利用できそうな技術で、多くの団体が興味を示していることがわかる。

これまで一部の専門家からの利用に限られていたデータをオープン化することにより、さまざまな利用が期待できる。横浜では都市の活性化につなげようとしている。今後に期待できる技術であろう。

蛇足。昼食は馬車道にある勝烈庵のカツレツ弁当をメインとしながら、横浜が発祥の地とされるスパゲッティナポリタンの調理提供、日本茶インストラクターによる各種お茶の提供などおもてなしの趣向も凝らされていた。



横浜大会風景

大野・七飯地区見学会

運営委員 小山直子

6月29日(日)に大野・七飯地区の見学会を実施しました。今回は、建物の見学と共に郷土資料館の見学を目的の一つとしました。

大野地区郷土資料館は移転後は展示品の数が限られるということで、移設前の見学としました。当日は、大野文化財保護研究会の木下寿実夫会長が展示品について時代背景も含め説明をしてくださり、大変有意義な見学会となりました。大野地区ではその他に光明時

や大村邸、北海道最古の神社である意富比神社等を見学しました。

七飯地区では、平成13年度に歴風文化賞を受賞した「藤田邸」で、太いケヤキの大黒柱や大阪障子等の創建時のままの室内を見せていただきました。七飯町歴史館を見学後、平成12年に歴風文化賞を受賞した「池田邸」が「そば処序葉久」になっていましたので、名物の板そばをいただき大満足の見学会を終えました。



木村文助コーナー(旧資料館)の見学



意富比(おおひ)神社の見学

五稜郭の文化価値を考える会の発足をめぐって

五稜郭の文化価値を考える会会長 佐々木 馨

本会の発足の原点が故フィリップ・グロード神父(社会福祉法人函館カリタスの園理事長)にあることは、改めて言うまでもありません。神父さんは、五稜郭の文化的価値について「過去、現在、未来」の三世(さんぜ)に亘って知り尽くした偉大な理解者でありました。函館市民創作である「函館野外劇」の生みの親でもあるその神父さんが、2008年に本国フランスのボーヴァン式要塞群が12ヶ所も「世界文化遺産」に登録されたのを機に、系譜的にそのボーヴァン式に連なる五稜郭を「追加」の形で13番目に登録したいと真摯に説論されました。しかし、平成24年12月25日、神父さんはその夢半ばにして昇天されました。その無念さは如何ばかりであったでしょうか。

私たち「函館の歴史と風土を守る会」と「函館日仏協会」は、神父さんの夢を「遺言」と受け止め、その実現に向け平成25年3月20日、五稜郭の築城様式を検証されている紺野哲也氏(元函館市史編纂室長)の講演「五稜郭築城秘話」を企画しました。この講演は研究史的に、白山友正氏の『武田斐三郎伝』が究明した「五稜郭=ボーヴァン式」説をより実証的に補説するものでした。この余勢を駆って、一気に「世界文化遺産」登録運動へと向う機運もあったのも事実ですが、先行する北海道・北東北の縄文遺跡群の「世界遺産登録」運動のことや、「オール函館」による推進運動、さらなる「五稜郭」の全体像の構築などを総合的に考慮して決定したのが本会であります。

「急いては事を仕損ず」の戒めを肝に銘じて、より堅実に、より現実的に取り組むことにしたのであります。その経緯と事業の概要を次に簡単に紹介しましょう。

「オール函館」の方針を基調に、各界各層の参加のもと(副会長3名、理事11名、監事2名、顧問3名)、昨年9月6日、発足総会と第1回目の基調講演、設立記念フォーラムを企画しました。また基本事業として、五稜郭の歴史的・文化的価値の調査・検証及び年2回の講演会と研修会の開催などを盛り込みました。そして個人年会費1千円、団体年会費5千円による会費制による運営としました。お陰様で、現在、個人・団体会員数は100名を数えます。

昨年12月6日に第2回目の講演会「戸切地陣屋と五稜郭」を開催しました。

最後になりましたが、本会に御理解と御支援を賜った会員の皆さんに衷心より感謝申し上げます。グロード神父さんの夢実現に向けて、一緒に歩んでいきましょう。

第12回 ふるさと写真展開催



高校生も参加しての受賞記念写真



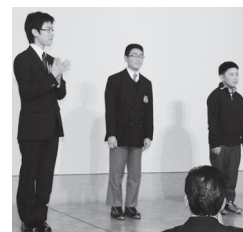
【表彰式の模様】



【会場の風景】

今年で12回目を迎えた写真展、今回から高校生も参加する写真展としました。高校生からは41点の応募があり、その結果でしょうか、昨年の81点から143点と数多くの応募がありました。審査の結果、銅賞以上の入選者は、ほぼ半分を高校生が占めてしまいました。

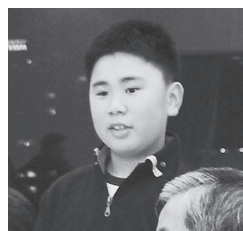
高校生が応募した写真は、風景の中に旨味に人物を配置し、画像を作り挙げている作品が多くあり、小中学生にとっても参考になる点が多くあり、今後のレベルアップにつながるのではないかと期待しています。応募受付にご協力いただいた五稜郭タワー、五島軒の皆様方に感謝申し上げます。(運営委員 新城 光正)



【写真展の受賞者】



【金賞】佐藤龍之介君



【歴風会長賞】坂本裕貴君



【企業局長賞】山本 歩君

《入賞者氏名》(敬称略)

▶金 賞	佐藤龍之介 (函館ラ・サール高2年) [願いごと]	
▶歴風会長賞	坂本 裕貴 (青柳小6年) [マリア像と修道院]	
▶企業局長賞	山本 歩 (函館ラ・サール中1年) [市民の足]	
▶銀 賞	砂原由妃乃 (中の沢小6年) 山木 悠輔 (千代田小5年) 池田 海登 (函館工業高2年)	
	菱沼 祐太 (函館稜北高2年) 佐々木怜菜 (函館工業高1年)	
▶銅 賞	年代 麻優 (亀田中1年) 田村 正幸 (桔梗小5年) 吉本 有秀 (亀尾中1年)	
	古明地勇斗 (附属小3年) 小野 祥生 (千代田小5年) 佐藤龍之介 (函館ラ・サール高2年)	
	野原 楓 (市立函館高2年)	
▶佳 作	齋藤 冴栄 (函館稜北高2年) 窪田 頼人 (昭和小3年) 水澤 健太 (光成中2年)	
	肝付 凱帆 (函館ラ・サール中2年) 青山幸太郎 (ラ・サール中2年) 窪田 海人 (亀田中2年)	
	田中 宏和 (北昭和小6年) 窪田 れら (昭和小1年) 狩野 哲生 (中島小4年)	
	花田 愛子 (柏野小6年) 赤石 直士 (函館工業高1年) 岡本 誇子 (柏野小6年)	
	藤本 真穂 (市立函館高2年)	

「五稜郭の文化価値を考える会」平成27年度講座日程（会場：函館市中央図書館 大研究室）		
開催日	講 座	講 師
4月29日	「村垣淡路守日記」を読む	元函館市史編纂室長 紺野哲也氏
5月23日	総会および第3回講演会「武田斐三郎と大島高任」	元釜石市立図書館長 中村公一氏
6月18日	「史料からみる日本の開国と箱館」	居留地研究会副会長 清水憲朔氏
8月25日	「箱館奉行所の仕様書を読む」	箱館奉行所館長 田原良信氏
10月	第4回講演会「五稜郭と古武井溶鋳炉」	元恵山町史編集長 近堂俊行氏
12月	「原史料を読む」（予定）	居留地研究会会長 岸 甫一氏
2月	「原史料を読む」（予定）	五稜郭の文化価値を考える会会長 佐々木 馨

会 務 日 誌

- H26. 5. 9
平成26年度函館の歴史的風土を守る会 総会
- H26. 5. 22
開港5都市函館大会・「見て、聴いて、考える町並み」実施について（市デザイン課説明）
- H26. 6. 29
大野・七飯地区 見学会
- H26. 8. 21
「見て、聴いて、考える町並み」打ち合わせ
- H26. 9. 6
「五稜郭の文化価値を考える会」総会・記念講演会
- H26. 9. 15
「見て、聴いて、考える町並み」実施
- H26. 10. 11
日本建設学会北海道支部 歴史探訪
- H26. 10. 17～19
開港5都市景観まちづくり会議横浜大会
（佐々木・吉村・新城・里見・新城・小山）

- H26. 12. 6
「五稜郭の文化価値を考える会」講演会
- H26. 12. 27
第8回運営委員会・CP第1回実行委員会 20名
- H27. 2. 7
第12回「ふるさと写真コンクール」入選作品審査
- H27. 2. 10～16
第12回「ふるさと写真コンクール」展示会
- H27. 2. 11
第9回運営委員会・CP第2回実行委員会 21名
- H27. 2. 15
第12回「ふるさと写真コンクール」表彰式
- H27. 2. 18～24
第12回「ふるさと写真コンクール」展示会
（再展示）
- H27. 2. 20
第32回歴風文化賞授与・町並み基金贈呈式及び
第37回新春チャリティーパーティー
- H27. 3. 26
第10回運営委員会・CP第3回実行委員会及びご
苦労さん会 17名

*** 編 集 後 記 ***

- ◇「れきふう」第88号の本欄で、編集業務から解放され、長年の充実感に深謝申し上げたところ、また本号に再登板しました。
- ◇投稿を御依頼申し上げた皆様の玉稿を早々にいただきながら、発行が遅延しました非礼深くお詫びいたします。
- ◇「歴風会」創立30周年時、恩師グロード神父師より記念事業に「五稜郭を世界遺産」にとの提言があり、今、佐々木会長が「五稜郭の文化価値を考える会」を立ち上げ、全市的規模で果敢に取り組

- まれている。一人でも多くの会員のエールを期待して止まない。
- ◇「ふるさと写真展」について、一昨年写真展担当の林会員がご逝去されたが新城会員の尽力で無事終了。今年は高校生参加のレールも敷かれ嬉しい限り。
- ◇今年は「チャリティー」の参加者が例年より多かった。関係各位の奮闘に深謝。来年も頑張ろう。
- ◇今号の写真は、函館市役所、対馬誠会員、新城光正会員、築地昌二氏によりました。

（文責 落合治彦）